



まきの木

羽島市市立堀津小学校
令和6年8月26日
9月号



学校の教育目標『心豊かに伝え合い たくましくやりぬく子』

えがおいっぱい かがやきいっぱい堀津の子

17日のPTA奉仕活動では、たくさんの保護者の皆様にお手伝いいただき、学校が見違えるほどきれいになりました。教室や廊下が明るくなり、運動場の雑草も少なくなりました。地域や保護者の皆様のおかげで学校運営ができていくことを改めて実感します。26日は、子供たちを気持ちよく迎えることができました。酷暑の中、ありがとうございました。

また、夏休みには、大きな事故や病気等の報告もなく、子供たちが元気で過ごすことができましたのも、保護者の皆様のご支援のおかげです。本当にありがとうございました。

さて、どんな夏休みを過ごされましたか。

今年の夏は、酷暑、地震、台風、異常気象、そして、パリオリンピック。まさに、「一喜一憂する夏」となりました。自国開催でないオリンピックでは過去最高の45個のメダル獲得となった日本選手団。日本人の素晴らしさが光った大会となりました。初出場での金メダルを獲得した体操の岡慎之介選手やスケートボードの吉沢恋選手、フェンシングの加納虹輝選手等の若い選手の活躍が目立ちましたが、いかに連覇をすることが大変なのかを感じるオリンピックでした。そんな中、日本人の心遣いや相手を思いやる行為に賞賛の声が注がれています。

体操の橋本大輝選手は、右手中指の負傷から思うようにプレーができませんでした。そんな中でも、団体最終種目の鉄棒のすばらしいプレーの直後会場が湧きたった後、中国の選手を気遣って、「しーっ」と人差し指を口元に当てて会場を静かにさせようとしたそうです。

また、卓球の早田ひな選手は、怪我に見舞われ痛み止めを打っての個人戦、団体戦での挑戦となりました。それでも、個人戦で銅メダル、団体戦では銀メダルという素晴らしい活躍でした。記念写真を撮るとき、リザーブという立場の木原美悠選手の首に自分の銅メダルをそっとかけたそうです。そして、「リザーブという一番難しい立場で最後まで明るく楽しそうにやりきっています」と木原選手をねぎらいました。東京オリンピックでは、自身がリザーブという立場で参加したからこそ、「絶対に4人でメダルをかけて写真を撮る!」そんな思いもあり、つらい治療にも耐えることができたと言っていることが印象的でした。仲間を大切にする、心遣いをわすれないという日本人のよさをぜひとも、子供たちにも伝えていきたいです。

いよいよ、前期後半が始まります。「笑顔いっぱい かがやきいっぱい 堀津の子」を合い言葉にし、前期のまとめとして、主体的に取り組む姿をご覧いただけるとよいと思います。

よろしく願いいたします。



○ 非常変災に対する対応について

8月8日には、初めて「南海トラフ地震注意情報」が発表されました。今までにない気象庁の対応に、心配された方も多かったと思います。「災害はわすれたころにやってくる」とはよくいったもので、我が家もストックを切らしていた水を購入しようとしたのですが、もうすでにスーパーの棚は空っぽの状態でした。常に意識して生活することの大切さを教えられました。学校では、危機管理マニュアルを見直し、複数の連絡方法を知らせしたり二次災害について考えたり様々な形での避難訓練を行ったりすることで再度意識を高めていこうと思います。ご家庭でも、もう一度、「避難場所の確認」「連絡方法の周知」「備蓄・整備」に心がけていきましょう。

○ 「ゼロカーボンシティはしま」を目指して

羽島市制70周年記念事業の一つとして、「ゼロカーボンシティはしま」の取組があります。本校でも4年生が社会科や総合的な学習の時間の中で、ゴミの減量に取り組んだことをビデオにまとめ、応募します。これからも、シビックプライドの意識をもって、羽島市の発展に貢献していきたいです。

